



第6回情報・技術交流会 手記

最近のヒト iPS 細胞由来心筋細胞を用いた心毒性評価応用の機運が高まるなか、日本安全性薬理研究会は、今後の安全性薬理試験として用いるために必要な、評価技術の平準化を促進させるため、第6回情報・技術交流会を iPS アカデミアジャパン株式会社（京都）にて開催した。本会では参加者による細胞外電位計測データの取得や、参加者全員でカルシウムイメージングを含めた計測データを議論・解釈する場を設けた。参加者は定員一杯の延べ約 30 名にのぼり、2 回に分けて実施された。後日、残された課題を検討すべく追加の検討会も実施した。

1 回目（4 月 16～18 日）；

測定機器メーカーである Multichannelsystems 社（独）より Thomas Meyer 氏、Axion Biosystems 社（米）より Steve Fiene 氏が来日し、それぞれの機器のデモンストレーションやデータ解釈について活発な議論に貢献して頂いた。



写真 1 実験風景



写真 2 集合写真



2回目（5月21～23日）

2回目もまた、細胞供給メーカーである Cellular Dynamics International 社(米)より Pat Brooks 氏および Blake Anson 氏、Axion Biosystems 社（米）より再度 Steve Fiene 氏が来日し、最近の米国の動向を含めた活発な意見の交換が行われた。



写真 1（Axion 社機器測定）



写真 2（MCS 社機器測定）



写真 3（αMed 社機器測定）



写真 4（討論風景）



写真 5（集合写真）



追加検討（7月24～25日）

1回目、2回目を踏まえ、残された課題についての検討を企画した。折しも、厚労省研究班による検証試験の実施が計画された時期であり、国立医薬品食品衛生研究所の関野祐子先生を迎えての検討となった。



写真1（集合写真）



写真2
（関野先生（最前列中央）を迎えて）